

(様式2)

平成21年度 学校経営計画書に対する中間報告書

石川県立高浜高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び今後の課題（改善策等）
1 学力の向上 (1) 生徒の学習意欲を喚起し、自主的に学習活動に取り組む態度を養う。 (2) シラバスの改善を図り、充実した活用に努める。	① 研修・研修講座に積極的に参加し、公開授業を展開して授業の改善を進める。	公開授業を実施し、外部の意見等を踏まえ A：授業改善が十分進んだ。 B：授業改善がある程度進んだ。 C：授業改善があまり進まなかった。 D：授業改善が全く進まなかった。	A	A+Bの合計が、80.8%であったが、授業は日々進行しているので、今後も教科指導等研究会、教育ウィーク公開授業等を開催し、全教職員に対して一層の授業改善を進めていきたい。
	② 適切な課題の出题、考査と考査の間に2回以上確認テストを行うなどで、家庭学習の意欲を高め基礎学力の向上を図る。	家庭学習時間を、一日平均1時間以上確保できている生徒が A：60%以上である。 B：50%以上60%未満である。 C：40%以上50%未満である。 D：40%未満である。	D	生徒対象のアンケート調査結果は、3.2%であった。基本的な学習習慣の身につけていない生徒が、実に多いことが明らかになった。また、家庭学習課題の量の調査では、少ない、やや少ないと答えた生徒が67.7%、教職員対象のアンケート調査では、確認テストの実施調査の結果は、A+Bの合計が58.4%に止まっていた。実技実習等の授業では実施困難な面もあるが、今後は、より一層の教職員の共通理解のもとで指導徹底を図り、さらに課題の提出点検をはじめ各種検定・資格取得の学習指導等も加えて指導徹底を進めていきたい。
	③ 生徒の実態の把握に努め、シラバスの改善を図り、授業内容・進度等の改善に努める。	シラバスの改善を踏まえ A：授業改善が十分進んだ。 B：授業改善がある程度進んだ。 C：授業改善があまり進まなかった。 D：授業改善が全く進まなかった。	A	A+Bの合計が、95.9%であった。今後も引き続き、この取り組みを全教職員に対して進めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間については数字が全てではない。授業に集中して頑張ることが大切である。なぜ勉強しなければならないのかという意識づけも必要である。 ・家庭学習をさせることについては保護者も協力できることもあるが、先生方の指導力による部分が大きいのでさらに頑張っていたきたい。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板の操作に慣れ、それを有効的に用いた授業スタイルを研究して確立させ、指導法や教材作りを工夫しながら一層の授業改善を図っていきたい。 ・「やればできる」という満足感や達成感を得ることができるよう課題の与え方や評価を工夫して、段々と家庭学習の時間を増やしていき、学力向上につなげたい。 			
2 進路の実現 (1) 家庭とも連携し、個々の能力、適性等に応じた進路実現を目指す。 (2) 早期の就職内定に向けて、積極的な指導に努める。	① 補習授業を行い、進学希望者の実力向上を図ると共に、各種模擬試験を実施し、分析結果を進学指導に活かす。	進学希望者の補習授業の参加率が A：90%以上である。 B：80%以上90%未満である。 C：70%以上80%未満である。 D：70%未満である。	B	参加率が89.3%であった。学年別では、3年生が92.2%だが、2年生が64.9%である。進学先を具体的に見据えている3年生に対して、やはり2年生の中弛みが原因であろうか。夏季補習に対する取り組み姿勢の立て直しを図ることが必然である。その方策として、進路実現のためには学力向上が必要であることを進路説明会等を通じて周知していくとともに、保護者の理解・協力を得て参加率を向上させたい。
	② インターンシップを通じて自己の職業生活をたくましく切り開いていこうとする意欲や態度を身につける。	インターンシップが進路決定の参考になると答えた生徒の割合が A：90%以上である。 B：80%以上90%未満である。 C：70%以上80%未満である。 D：70%未満である。	生徒の報告書にあるアンケートをもって判断する。（9月）	インターンシップの活動が、直接的に就職活動になるわけではない。しかし、就業体験を通じて生徒が自分の将来像を描きはじめるきっかけになっている。今年度は2・3年生の希望者による実施であったが、参加者はクラスにより偏りが見られた。全体的に参加を促す雰囲気づくりが必要である。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・新しくスタートした志賀高校の1年生に目が向きがちであるが、高浜高校の最後となる2、3年生の進路実現に向けてさらに指導していただきたい。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・進学や就職に対する情報をより多く提供し、進路指導をさらに充実させて生徒一人ひとりに早期に目標を持たせたい。そして自己の進路実現のためにやるべきことを考えさせ、実践させていきたい。また進学希望者に対しては補習だけでなく個別指導も行ってその実現を目指したい。 			
3 基本的生活習慣の確立、在り方・生き方教育 (1) 登校指導、巡回指導、授業規律の確立、携	① 全教職員による登校指導をはじめ、校内外巡視の充実を図る。	遅刻を一度もしない、服装検査は一度も違反しない、挨拶を積極的にしている生徒が学校全体の A：70%以上である。 B：60%以上70%未満である。 C：50%以上60%未満である。 D：50%未満である。	A	生徒対象のアンケート調査では時間を守ることと服装検査並びに挨拶の徹底を合わせると、A+Bで79.6%であった。生徒評価は高く、特に3年生が高かった。今後も継続し指導していきたい。また携帯電話に関する使用マナーとインターネットトラブルに遭わないように夏休み明けに非行防止教室等、講演を行う必要がある。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び今後の課題（改善策等）
携帯電話のマナー指導等に取り組む。 (2) 自尊感情を向上させ、自己肯定感を育み、「生きる力」を醸成する。	② 美化週間を年3回設定し、クラスごとに清掃に関する15項目のチェックを行い、環境の美化と生徒の美化意識向上を目指す。	美化週間での清掃のチェックで、2、3学年4クラスのうち平均点13点以上が A：全クラスであった。 B：3クラスであった。 C：2クラスであった。 D：1クラス以下であった。	D	第1回の教室チェック(5日間実施)の結果、高浜高校では平均13点以上のクラスは1クラスのみであった。第1回は高浜・志賀両校の生徒を混ぜてチェックさせたが、保健委員によってチェックの厳しさにばらつきがあったため、厳しくチェックする保健委員が当たったクラスは点数が低い結果となったようである。次回からは日替わりでクラスチェックを行うなどの工夫が必要と考えられる。
	③ 健康診断の結果を通知し、歯科受診率の向上を図る。	歯科受診率が A：50%以上である。 B：40以上50%未満である。 C：30以上40%未満である。 D：30%未満である。	夏期休業中の受診者数を把握してから集計を行う予定(現在の時点ではD)	受診が必要な生徒へは、健康診断後と夏季休業前の2回受診勧告書を渡した。保健日より等で治療を促しているが、8月6日現在、受診率は、2年4.3%、3年25.0% 合計12.8%で少ない状況である。夏季休業中に通院するよう保健日よりでも促したので、夏季休業後に受診者を把握する予定である。
	④ 面接・礼法指導を行い将来の社会生活に適應する生活態度の養成につとめる。	面接・礼法指導を受けた生徒で、自分の考えが話せるようになったと答える生徒の割合が A：90%以上である。 B：80%以上90%未満である。 C：70%以上80%未満である。 D：70%未満である。	A	3年生の就職希望者を対象に指導を繰り返し行い、8月18日の模擬面接後にアンケート調査を行ったところ、90.4%の生徒が「話せるようになった」と答えている。生徒が企業からの内定を得るためという目的が明確なため、礼儀を身につけようとする意識が高い。志望動機や自己PRなど、自分の考えをしっかりと相手に伝える必要性も認識している。今後も引き続き、進学希望者に対する面接・礼法指導も教員が一丸となって指導できる体制を整えて成果をあげたい。
	⑤ 年2回の面談週間実施等、個人面談により生徒理解に取り組む。また、生徒への日常的な声掛けを全職員が心掛ける。	先生は個人面談等で A：生徒の理解に努めている。 B：ある程度生徒の理解に努めている。 C：あまり生徒の理解に努めていない。 D：生徒の理解に努めていない。	アンケート結果では2、3年生ではAが1%、Bが51%、Cが29%、Dが19%という結果になった	左のような結果になったが、C、Dの比率も高い。教職員に対する信頼度が高いとは言えない。個人面談でも声かけでも、もっと生徒の心に響くものが求められるのであろう。
	⑥ 「生徒の理解と対応」をテーマとした校内研修会を企画、実施し、教職員の資質向上を図る。	校内研修会により生徒理解が A：深まった。 B：ある程度深まった。 C：あまり深まらなかった。 D：全く深まらなかった。	研修会直後のアンケートでは、Aが30%、Bが70%という結果になった。	総じて研修会の役割は果たせていると思うが、より一層生徒理解に役に立つ内容にしたいと考える。
	学校関係者評価委員会の評価	・校舎内の美化運動を徹底させているのでかなり綺麗になっている。掃除をしっかりとすれば毎日すっきりして頑張ろうという気になるのではないかな。 ・声かけによるコミュニケーションなど生徒には愛情を持って接することが大切である。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・学力向上には学習環境の整備も大切な要因の一つである。勉強しやすい環境、落ち着いて学習できる環境作りのためにも日頃の清掃を引き続き徹底させたい。 ・今後も朝の登校指導の中で、挨拶励行や遅刻指導を行って基本的生活習慣の確立を実現したい。またその指導は画一的なものにならないよう生徒一人ひとりに対応したものにしたい。			
4 体力向上と部活動の活性化 (1) 学校をあげて「体力アップ1校1プラン」を推進する。 (2) 部活動を通しての人格陶冶を図る。 (3) 競技成績の向上に努める。	① 体力アップを推進し、生徒の体力向上を図る。	新体力テストの総合評価のABC群の増加が A：20%以上である。 B：15%以上20%未満である。 C：10%以上15%未満である。 D：10%未満である。	11月実施の追跡テストの集計結果により判断する。(4月実施の結果は基準データとなる。)	4月に実施の新体力テスト(基準データ)では、ABC群・・・76.3%、DE群・・・23.7%という結果であった。11月の追跡テストで目標を達成するにはD群に属する生徒(全体の21%・20人)に着目し意識づけをして、C群への移行意欲を高める必要があると考える。 ※昨年度4月の結果はABC群・・・77%
	② 部活動への全員加入を推進する。	部活動加入率が A：100%である。 B：95%以上100%未満である。 C：90%以上95%未満である。 D：90%未満である。	B	5月の加入状況調査では、部活動加入率が97%である。2年生の男子に3名の未加入者がいるが、声掛け等、加入への地道な取り組みが必要である。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び今後の課題（改善策等）
	③ 部活動を活性化する。	部活動の取り組みに対して A：十分満足している。 B：満足している。 C：満足感がうすい。 D：満足感が得られていない。	生徒のアンケート結果は A：24% B：43% C：26% D：7% であった。	全体の3分の2程度の生徒が満足しているようだが、3分の1程度の生徒に多少不満があるようだ。各部の顧問と連携してより充実した取り組みとなるようにしていきたい。
	④ 浜高祭（文化祭・体育祭）に全校生徒が積極的に参加し、協力して行えるように課題を提供して、生徒の意識を向上させる。	浜高祭（文化祭・体育祭）に A：積極的に自分の役割を果たした。 B：自分の役割をある程度果たした。 C：自分の役割をあまり果たせなかった。 D：自分の役割を全く果たせなかった。	生徒のアンケート結果は A：33% B：40% C：21% D：6% であった。	体育祭では、全体の7割程度の生徒は自分の役割をある程度果たしたようだが、3割程度の生徒は取り組みが消極的だったようである。文化祭では、もっと多くの生徒が積極的に取り組めるように生徒会執行部と連携して課題を提供していきたい。
	⑤ 「いしかわ学校版環境ISO」実践校として学校や家庭で節電や節水に積極的に取り組む。	学校や家庭で節電や節水に対して A：積極的に取り組み十分実践した。 B：環境に配慮し実践した。 C：環境に関心があったがあまり実践できなかった。 D：全く実践できなかった。	第2回（1月）の環境意識アンケートの結果をもって判断する。	年度始めに、生徒及び職員から昨年度の反省と今年度取り組むべき提案を調査したうえで、今年度の活動計画をまとめた。6月のアンケート結果を見てみると、生徒アンケートでは13項目中8項目、職員アンケートでは33項目中26項目で平成20年度と比べて意識の向上が見られている。9月の文化祭では県民エコステーションから食器洗浄機「ピカピカ号」を借りて箸やどんぶり等のゴミの減量にも取り組む予定である。環境に対する意識の向上と実践に努めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	部活動については、スポーツ設備に不十分な点があるがやはり指導者が重要である。生徒の満足感・充実感を高める指導をお願いしたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	各部の顧問がすべてその部の専門家ではないのが現状ではあるが、忙しい校務の中でも毎日の部活動練習にできるだけ顧問が参加して、練習を引き締めていく。また練習方法や内容を工夫して技術の向上を図るとともに、スポーツメンタル講習会と体力アップトレーニング講習会を実施して、精神面や体力面の強化も図って競技力の向上を目指したい。			
5 地域との連携 (1) 地域から信頼される学校づくりを目指し、ボランティア活動等に取り組む。 (2) 学校HP、学校便り等を通して情報発信を行う。	① 学校行事、PTA総会、講演会、研修旅行等への保護者の参加を促進し、保護者と教職員の連携を深める。	保護者が一年間で学校行事等に参加した回数が A：5回以上である。 B：3回以上5回未満である。 C：1回以上3回未満である。 D：0回である。	第2回（1月）の学校評価アンケートをもって判断する。	PTA総会では保護者数95名中12名の出席があり、6月の保護者懇談では65名が、3年生の進路懇談では31名の保護者が来校した。またPTA研修旅行では9名の参加が、夏休みに行われた校舎内環境整備（ペンキ塗り）で11名の保護者が参加した。今後文化祭やマラソン大会の豚汁サービス等の活動があるが、来校してもらえる保護者は役員の方が多い。少しでも多くの一般会員の保護者が来校してもらえるよう参加を呼びかけたい。
	② ボランティア活動・地域の行事等、地域との交流に積極的に取り組む。	ボランティア活動・地域の行事等、地域との交流に A：積極的に参加している。 B：十分とはいえないが、ある程度参加している。 C：あまり参加していない。 D：全く参加していない。	生徒のアンケート結果は A：10% B：32% C：32% D：25% であった。	第1回の生徒アンケートでC「あまり参加していない」が32%、D「全く参加していない」と回答した生徒が25%であった。ボランティア活動に興味はあるけど、参加の仕方が分からない生徒も多くいると思うので、その辺の情報も生徒にもっと与えて取り組む生徒を増やしていきたい。
	③ 3年生の課題研究及び総合的な学習の時間の研究発表会を休日に開催し、保護者や地域住民に本校の教育活動への理解を深める。	研究発表会を見て、内容に満足している保護者、地域住民が A：80%以上である。 B：70%以上80%未満である。 C：60%以上70%未満である。 D：60%未満である。	実施後のアンケート調査で判断する。	現在3年生は課題研究や総合的な学習の時間の発表会に向けて、積極的に取り組んでいる。発表会は来年の1月に行うが、志賀広報や本校ホームページ等を実施計画書載せて広く地域住民に当日の参加を呼びかけたい。
	④ 『総務課たより』を学校行事やPTA活動後に作成して発信する。またそれをホームページにも載せる。	総務課たよりやHPを見た保護者が、本校の教育活動内容を理解できたと感じる割合が A：70%以上である B：60%以上70%未満である。 C：50%以上60%未満である。 D：50%未満である。	保護者のアンケート結果は A：12% B：55% C：26% D：6% であった。	第1回の保護者アンケートの「総務たよりやHPを通じて学校の様子が理解できた」という質問に対してA+Bの合計が67%であった。配布物を必ず家に持ち帰ることを生徒に言い続けるとともに、今後も学校の様子を発信し続けて、70%以上であるとする「A」判定を目指したい。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び今後の課題（改善策等）
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と教職員の連携には学校からの配布物が保護者に確実に届くことが必要である。ST等でこまめに生徒に注意するなど、指導の徹底をお願いしたい。 ・この中間報告をホームルーム等で生徒に示し、生徒自身にもどうすればよいのか考えさせてはどうか。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健全育成には学校と保護者の連携が必要なことは言うまでもない。配布物は家に持ち帰るよう言い続けるとともに、保護者にも日々学校からの配布物はなかったかどうか子どもへの問いかけをしていただけるよう保護者懇談等を通してお願いしていきたい。 ・LTの時間に中間報告の結果を生徒に示して、考えさせる。 			